

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 7 月 2 日 (2009.7.2)

【公表番号】特表 2009-520078 (P2009-520078A)

【公表日】平成 21 年 5 月 21 日 (2009.5.21)

【年通号数】公開・登録公報 2009-020

【出願番号】特願 2008-545864 (P2008-545864)

【国際特許分類】

C 1 0 M 171/02 (2006.01)

C 1 0 M 101/02 (2006.01)

C 1 0 M 105/04 (2006.01)

C 1 0 N 20/00 (2006.01)

C 1 0 N 20/02 (2006.01)

C 1 0 N 30/00 (2006.01)

【F I】

C 1 0 M 171/02

C 1 0 M 101/02

C 1 0 M 105/04

C 1 0 N 20:00 C

C 1 0 N 20:02

C 1 0 N 30:00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 4 月 16 日 (2009.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一種以上の水素化脱ロウ油および / または水素異性化油基材および基油、水素異性化油基材および基油、G T L 基材および基油、ならびにそれらの混合物を含む基油の性能添加剤を可溶化する溶解性および能力を改良するための方法であって、

前記基油は、基油へ高粘度グループ I 鉱油を添加することによって、動粘度 (1 0 0) 3 m m ² / 秒 ~ 5 0 m m ² / 秒を有し、

その際、前記高粘度グループ I 鉱油は、動粘度 (1 0 0) 1 2 m m ² / 秒以上を有するものとして特徴付けられ、かつ、前記高粘度グループ I 鉱油は、基油へ、一種以上の水素化脱ロウ油基材、水素異性化油基材、G T L 基材、またはそれらの混合物と、高粘度グループ I 鉱油との混合物の全重量を基準として、高粘度グループ I 鉱油 1 ~ 5 5 重量 % の範囲の量で添加されることを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記高粘度グループ I 鉱油は、0 . 8 8 8 5 ~ 0 . 9 2 0 g / c m ³ の範囲の密度 (6 0) および 9 0 ~ 1 0 0 の範囲の V I を有することを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記高粘度グループ I 鉱油は、一種以上の水素化脱ロウ油基材および基油、水素異性化油基材および基油、G T L 基材および基油、またはそれらの混合物を含む基油へ、混合物の全重量を基準として高粘度グループ I 鉱油 5 ~ 5 5 重量 % の範囲の量で添加されること

を特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記高粘度グループ I 鉱油は、一種以上の水素化脱ロウ油基材および基油、水素異性化油基材および基油、G T L 基材および基油、またはそれらの混合物を含む基油へ、混合物の全重量を基準として高粘度グループ I 鉱油 10 ~ 55 重量%の範囲の量で添加されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記基油は、動粘度 (100) 3 . 5 mm² / 秒 ~ 30 mm² / 秒を有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 6】

前記基油は、G T L 物質の水素化脱ロウ油または水素異性化油であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 7】

一種以上の水素化脱ロウ油基材および / または基油、水素異性化油基材および / または基油、G T L 基材および / または基油、あるいはそれらの混合物を含む基油、ならびに高粘度グループ I 鉱油 1 ~ 55 重量%を含む、溶解性が改良された潤滑油材であって、

前記高粘度グループ I 鉱油は、動粘度 (100) 12 mm² / 秒以上を有するものとして特徴付けられることを特徴とする潤滑油材。

【請求項 8】

前記基油は、動粘度 (100) 3 . 5 mm² / 秒 ~ 30 mm² / 秒を有することを特徴とする請求項 7 に記載の潤滑油材。

【請求項 9】

前記基油は、G T L 物質の水素化脱ロウ油または水素異性化油であることを特徴とする請求項 1 5 に記載の潤滑油材。

【請求項 10】

前記高粘度グループ I 鉱油は、0 . 885 ~ 0 . 920 g / cm³ の範囲の密度 (60) および 90 ~ 100 の範囲の V I を有することを特徴とする請求項 7 ~ 9 のいずれかに記載の潤滑油材。

【請求項 11】

(イ) 一種以上の水素化脱ロウ油基材および / または基油、水素異性化油基材および / または基油、G T L 基材および / または基油、あるいはそれらの混合物を含み、かつ動粘度 (100) 3 mm² / 秒 ~ 50 mm² / 秒を有する基油 / 基材 ;

(ロ) 動粘度 (100) 12 mm² / 秒以上を有し、かつ一種以上の水素化脱ロウ油基材および / または基油、水素異性化油基材および / または基油、G T L 基材および / または基油、あるいはそれらの混合物と、高粘度グループ I 鉱油との合計重量を基準として 1 ~ 55 重量%の量で存在する高粘度グループ I 鉱油 ; および

(ハ) 添加剤量の少なくとも一種の性能添加剤を含むことを特徴とする潤滑油処方物。

【請求項 12】

前記基油は、動粘度 (100) 3 . 5 mm² / 秒 ~ 30 mm² / 秒を有することを特徴とする請求項 11 に記載の潤滑油処方物。

【請求項 13】

前記基油は、G T L 物質の水素化脱ロウ油または水素異性化油であることを特徴とする請求項 11 に記載の潤滑油処方物。

【請求項 14】

前記高粘度グループ I 鉱油は、0 . 885 ~ 0 . 920 g / cm³ の範囲の密度 (60) および 90 ~ 100 の範囲の V I を有することを特徴とする請求項 11 ~ 13 のいずれかに記載の潤滑油処方物。

【請求項 15】

少なくとも一種の性能添加剤を、一種以上の水素化脱ロウ油基材および / または基油、

水素異性化油基材および／または基油、G T L 基材および／または基油、あるいはそれらの混合物を含み、かつ動粘度（ 100 ） $3\text{ mm}^2/\text{秒} \sim 50\text{ mm}^2/\text{秒}$ を有する基油と、動粘度（ 100 ） $12\text{ mm}^2/\text{秒}$ 以上を有する高粘度グループⅠ鉱油とを含む潤滑油材に、溶解量で含む潤滑油添加剤濃縮物であって、

前記高粘度グループⅠ鉱油は、一種以上の水素化脱ロウ油基材および／または基油、水素異性化油基材および／または基油、G T L 基材および／または基油、あるいはそれらの混合物と、高粘度グループⅠ鉱油との合計重量を基準として $1 \sim 55$ 重量％の範囲の量で存在することを特徴とする潤滑油添加剤濃縮物。

【請求項 16】

一種以上の水素化脱ロウ油基材および／または基油、水素異性化油基材および／または基油、G T L 基材および／または基油、あるいはそれらの混合物を含む前記基油は、動粘度（ 100 ） $3 \sim 5\text{ mm}^2/\text{秒} \sim 30\text{ mm}^2/\text{秒}$ を有することを特徴とする請求項 15 に記載の潤滑油添加剤濃縮物。

【請求項 17】

一種以上の水素化脱ロウ油基材および／または基油、水素異性化油基材および／または基油、G T L 基材および／または基油、あるいはそれらの混合物を含む前記基油は、G T L 物質の異性化油であることを特徴とする請求項 15 に記載の潤滑油添加剤濃縮物。

【請求項 18】

前記高粘度グループⅠ鉱油は、 $0.885 \sim 0.920\text{ g/cm}^3$ の範囲の密度（ 60 ）および $90 \sim 100$ の範囲のV Iを有することを特徴とする請求項 15 ～ 17 のいずれかに記載の潤滑油添加剤濃縮物。